街コン戦記

第 8 期 OB　黒沢 祐介

学生時代から友達の少なかった僕は,「社会人になったら，交友関係は広がっていくんだろう」となんとなく漠然と思っていましたが，実はそんなことはなかったようです。

昨年 7 月に，内勤から外回りまぁいわゆる営業に異動になった訳ですが，異動に伴って山形という最果ての地に引っ越した訳ですが，全くもって，出会いがありません。いやーこれには困った。外回りに行っても，日中にコンビニで働いているのは，だいたい干支を 4 周ないし 5 周しているステキな奥様ばかりなのであります。

このままだと出会いはない！ 一生結婚できないかもしれない！ と焦った私は,一念発起して“街コン”なるものに参加したのでありました。街コンがどのような手順で進むものなのかとか，雰囲気がどのようなものであったかとかは，ここでは割愛いたします（気になる方はご一報ください)。

友達の少ない著者が夢の国にて会社の同期女子に囲まれている様子（著者は前列右端）

勝手に戦果をご報告いたしますと，ステキな方との出会いはありませんでした。しかしながら，重要なこと――すなわち，自分は異性に対する注文が多すぎること――に気づいたのであります。

小学校の時なんて，「足が早い人，カッコいい！」，「ドッチボール強い人，カッコいい」とか，非常にしょうもないことが，好きになるきっかけになっていたというのに（何故か女子目線ですが）…。それが今では，「料理は上手か」「お酒は一緒に飲んでくれるか」，挙げ句の果てには，「石原さとみみたいな人，いないかなぁ」なんて追加注文するような，大層なご身分になってしまったような気がします。しかも，追加注文というのも，途中から「この人じゃダメな理由探し」みたいになっているような気がします。

25 歳にもなって，こんな気色の悪いことをツラツラと書きましたが，2014 年は，相手の良いところを探すようにしたいです。

友達の少ない著者を支えてくれる小学校の同級生と（著者は後列右から 2 番目）